

## 故郷で農業

— 私達のIT力をスマート農業で確認してみたい —

今村 勇雄  
(株式会社ディーソル)  
代表取締役社長



(はじめに)

私達は東京都中央区に本社を構えるIT関連企業です。1974年に創業し今年で45年目となります。その間にデータ運用、印刷、ソフト開発、発送代行、コールセンター運営と、業態を拡げてまいりました。そして長崎県五島市においては、入力センターを運営し、またITとの融合を目指した農業を営んでいます。

五島市への企業進出は、2008年に五島市の行政より誘いを受け、五島は私の故郷でもありましたので、初めに入力センターを立ち上げることを決めました。当初は人材の確保や教育で大変苦労しましたが、現在では入力業務及びデータ運用のセンターとして、70名程の陣容で運営をしております。

五島市は長崎港から約百キロメートルの位置にあり、11の有人島と52の無人島から成る諸島です。核となる福江島とその周辺の島嶼<sup>とうしょ</sup>を合わせた五島市の人口は、今年4月時点で37,000人不足です。既に年々高齢化と人口の流出が進行していますが、2040年には日本全体の生産年齢人口が激減すると言われており、五島はまさにその現象が顕著となる地域です。県や市の各種資料では、島の人口の著しい減少が大きな問題となっています。

そのような中で、2016年4月に「有人国境離島法」(「有人国境離島地域保全及び特定の有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法」)が成立し、2017年4月に施行されました。この法律は、国境に接する離島に人が継続して居住できるよう国が積極的に関与し、日本の領海や排他的経済水域を保全することを目的としたものです。五島列島の島々もこの法律の「特定有人国境離島地域」に指定されています。当社が入力センターもこの法律を受け、追加人材の確保に尽力していますが、なかなか容易ではありません。

五島市に入力センターを立ち上げてから7年後の2015年には、再び五島市の行政より「ワイン用のブドウ栽培を手掛けてみないか」と持ち掛けられました。ワイナリーはできたが葡萄の作付けが増えない、とのことでした。

五島出身者である私は、自分の故郷の将来に強い危機感を抱いておりましたので、五島市からこのブドウ栽培の誘いを受けたとき、IT業務に従事している女子と農業に従事することになる男子に出会いのチャンスが生まれ、将来的に家族を持ち五島に根付いてくれるのではないかと、高齢化そして人口の減少に少しでも歯止めを掛けたい、という思いでこの誘いを引き受けました。引き受けるに当たっては、行政側が要員・用地の確保、栽培指導等で全面的にバックアップしてくれました。農業関連の補助金も種々ありますが、必ずしも使い勝手の良いものばかりではありません。タイミングの問題もあります。私達は自前でも生産に関わる設備投資を積極的に行っていますが、農業の持続が困難になった高齢者の既存施設なども借り受け再利用して、規模の拡大を図ってきています。

### (スマート農業の推進)

五島で農業を始めるに当たっては、まずいわゆる3K（きつい、汚い、危険）を取り除こう、そして経済的にも時間的にもゆとりが持て家族旅行などのレクリエーションも実現できる、障がい者も一緒に働ける、そうやって皆で豊かになろう、そしてそれはITを使って実現していこう、というビジョンを掲げました。

幸い私達の企業は、酒類・食品系の大手企業と長年に渡る取引があり、営農者が通常苦勞する販路については問題ありません。数量の確保、品質の安定、納期の確約等の問題はありますが、克服できない問題ではないと考えております。

施設園芸では、パプリカ、マンゴー、ミニトマトを栽培しています。ミニトマトとパプリカのハウスには、CO2濃度を管理するシステムを導入、基準値を下回ると高濃度の液化炭素ボンベから自動制御で必要量を局所的に供給することができます。また、当社で開発した農業遠隔監視システムにより、現地に行かなくても手元のスマートフォンでリアルタイムに温度、湿度、CO2等をモニタリングすることができ、予め設定したしきい値を超えると、生産者に注意を促すメールが送信されるようになっています。

レタス畑では、毎週ドローンを飛ばして動画撮影し、生育状況を主要顧客に配信しています。また、フルーツガーデンを現在整備中で、ワイン用の葡萄、オリーブ、レモン、ライム、キウイ、アボカド、金柑、オレンジ、柿、ソルダム、プラム等を植え付けし、五島市を訪れる観光客に四季折々の果物を提供する予定です。

今年6月より「ふるさと納税」の制度が変わり、返礼品が地場産品に限定されましたので、私達の農場で獲れる産品も五島市の返礼品としての選択肢が拡がり、フルーツ栽培には力が入ります。私見ですが、元来「ふるさと納税」は故郷以外には納税すべきでないと考えております。県民所得の少ない県で一生懸命子供を教育し都会の大学へ進学させ、子供はそのまま都会で就職してそこで納税する、というのはいささか理不尽に感じ、出身地へ還元があって然るべきと考えております。

私達が標榜する農業は、ITもしくはIoTを用いて営農するスマート農業です。施設園芸の自動化、無人農機やドローンの活用、データの収集とAIによる分析、衛星の利用など、構想が拡がります。これらによって、従来型の農作業の省力化・軽労化を実現していきます。

### (おわりに)

昨年初めてワイン用の葡萄を出荷する予定でしたが、7月の台風で全滅しました。農業は常に気象との闘いであることを実感しました。また、秋にも幾つか台風が来ましたが、その強さや進路によって台風対策が異なります。何を守るか、何を捨てるか緊張が走ります。行政から譲り受けた鉄骨ビニールハウスは、経年劣化で今年的全張替えを決断しました。加温については、農業用限定での許可を得て温泉熱による加温を行っています。55℃で200L/secの湯量がありますが、十分な熱交換ができていないため重油による加温も必要となっています。今年で農業を開始して5年目に入りましたが、このように現状では走りながら考え、手を打っているといたった状況です。

IT企業が始めた手探り状態の農業ですが、結果的にIT企業としての可能性を拡げ企業の付加価値を高めるものとして、私達は農業にある種のロマンを追い求めながら、その歩みを進めている途上です。



(農業法人 株式会社HPIファーム 鬼岳農場 ぶどう園 / 長崎県五島市)